

## 2 調査会審議経過

### 国際問題に関する調査会

#### 委員一覧 (25名)

会長	松田 岩夫 (自民)	小林 温 (自民)	郡司 彰 (民主)
理事	山東 昭子 (自民)	末松 信介 (自民)	富岡 由紀夫 (民主)
理事	世耕 弘成 (自民)	田村 耕太郎 (自民)	広野 ただし (民主)
理事	野上 浩太郎 (自民)	中川 雅治 (自民)	前田 武志 (民主)
理事	大塚 耕平 (民主)	二之湯 智 (自民)	浮島 とも子 (公明)
理事	佐藤 雄平 (民主)	水落 敏栄 (自民)	澤 雄二 (公明)
理事	加藤 修一 (公明)	大石 正光 (民主)	大門 実紀史 (共産)
	大仁田 厚 (自民)	木俣 佳丈 (民主)	
	岸 信夫 (自民)	工藤 堅太郎 (民主)	(17.10.26 現在)

#### (1) 活動概観

##### 〔調査の経過〕

本調査会は、第161回国会の平成16年10月12日に設置され、今期3年間にわたる調査テーマを「多極化時代における新たな日本外交」と決定した。具体的な調査項目として、「日本のアジア外交」、「日本の対米外交」、「日本の対EU外交等」及び「国際社会の責任ある一員としての日本の対応」について調査を進めることとした。

第1年目は「日本のアジア外交」を中心に調査を進め、第162回国会の平成17年7月20日に第1年目の調査を取りまとめた調査報告書（中間報告）を議長に提出した。

第2年目の第163回国会においては、1回の調査を行った。

10月26日に、「日本のアジア外交」のうち、「日中外交の回顧と今後の課題」について、朱建榮参考人（東洋学園大学人文学部教授）及び天児慧参考人（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）から意見を聴取し、質疑を行った。

##### 〔調査の概要〕

##### 「日本のアジア外交」

「日中外交の回顧と今後の課題」について、朱参考人から、当面の日中関係をどう把握するか、中国の内政と外交に起きている「地殻変動」、胡錦濤指導部の対日政策及び日中関係の展望と提言について、また、天児参考人から、問題の提起——彷徨する日本外交、厳しくなった日本を取り巻く外交環境、2010年代初頭の国際環境をどう読むか及び日本の外交戦略をどう立て直すかについて、それぞれ意見を聴取した。

続いて、委員から、米国企業の中国からの投資引上げの背景、台湾問題に対する中国国民の認識、日中間における中高生交流の課題と問題点、日本の国連安保理常任理事国入りのメリット、今後の日中外交における最も重要なポイント、中国における共

産党一党体制の今後の見通し、平和問題や環境問題などにおいて中国の目指す外交戦略の中身、日中関係改善の上で民間団体（NGO、NPO）が果たす役割、米国が東アジア共同体の構築に不快感を示す理由、中国及び米国の安全保障問題と東アジア共同体構想との関係等について質疑を行った。

## （２）調査会経過

### ○平成17年10月26日（水）（第1回）

- 理事の補欠選任を行った。
- 参考人の出席を求めることを決定した。
- 「多極化時代における新たな日本外交」のうち、日本のアジア外交（日中外交の回顧と今後の課題）について参考人東洋学園大学人文学部教授朱建栄君及び早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授天児慧君から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕山東昭子君（自民）、富岡由紀夫君（民主）、加藤修一君（公明）、大門実紀史君（共産）、田村耕太郎君（自民）、澤雄二君（公明）、佐藤雄平君（民主）

- 国際問題に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。

### ○平成17年11月1日（火）（第2回）

- 調査会長の辞任を許可し、補欠選任を行った。